

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号	15
------	----

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生</li> <li>・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生</li> <li>・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実</li> <li>・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進</li> <li>・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒</li> <li>・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒</li> <li>・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業が理解につながっているとの回答が生徒、保護者とも増加した。ICTの活用の推進がますます必要となる。</li> <li>・一人一人の能力に応じた指導、課題研究等については全体としての評価は上がってはいるが、2年生での評価が低い。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用し、課題を解決するための思考力、判断力、表現力を育成する。</li> <li>・学習の過程や成果の適切な評価ができるよう、ルーブリックの活用を推進する。</li> <li>・ICT機器を利用した効果的な授業および働き方改革を推進する。</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を効果的に活用するための授業研究会を開催する。</li> <li>・他分掌、教科、学科との連携を図り、授業研究会や教科研究会を推進する。</li> <li>・観点別評価の研究チームを教務内に設置し、評価の在り方の改善を図る。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) ICT機器を利用した公開授業の実施 (2) 教科、学科内の授業改善に向けた研究会 (3) 観点別評価のアンケート実施	(1) 学校評価アンケートの結果 (2) 授業アンケートの結果 (3) 各教員の自己評価		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1) ICTを利用した公開授業及び研修会の実施 (2) 各教科、科目における基礎的基本的な知識・技能を確実に習得させる授業の実施 (3) 考查毎の観点別評価とアンケートの実施および検証	①ICT機器を利用した効果的な授業が推進できたか。 ②生徒一人一人の学習過程を評価し到達目標に合った授業が展開できたか。	(A) B C D A (B) C D	
12 成果・課題	○オンライン学習支援の通年実施ができた。職員会議、他校との合同会議、研修会の実施にもWebex MeetingsやTeamsの利用が進んだ。ペーパーレス化、会議の時間短縮等、働き方改革の推進ができた。 ○MetaMoji、Manaba等の学習支援ソフトの活用が増加している。生徒からもICTを利用して理解が深まっているとの意見も多くなり成果があったといえる。教科・科目によりICTの利用効果は違うため各教科の研修は今後も必要である。 ○学習支援ソフトや採点支援ソフト等の利用方法について教員間で情報交換が進み、積極的に活用されている。 ●2年生において課題研究の内容に意義を感じられていない生徒が少なからずいる。課題発見とその解決に向けた主体的な学習の推進の主軸となる学習として課題研究の意義を再確認させるとともに、課題研究の取組を充実させていく必要がある。 ●本校としての観点別評価が統一して実施できたが、アンケート調査により明らかになった課題について、さらなる検討が必要である。		
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の研究と推進、教員の意識改革 → 研修会の実施、教務からの発信</li> <li>・課題研究の充実と主体的な学習の推進 → 研修会への参加</li> <li>・学習支援ソフトの活用の推進 → 教員間の情報交換</li> <li>・教科横断的な指導のための授業研究の交流 → 公開授業の継続実施</li> </ul>		

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇進路指導部														
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「進路情報の提供」「希望に沿った進路指導」について、生徒からは適切であると評価される一方、保護者からは生徒ほどに評価されておらず、進路指導の在り方が十分伝わっていない。														
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒のキャリア形成支援の視点による進路指導の推進 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた効果的な進路指導の推進 ・組織的に進路指導にあたることのできる仕組みや体制の構築 ・進路支援、読書&学習情報センターとしての図書館機能の充実														
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部内の業務・分担の明確化 ・学年会や他分掌との連携強化														
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
	(1) キャリアカウンセリングの視点による将来の目標を実現するための進路指導 (2) 学年会と連携した進路指導 (LHR) (3) 学科、進学クラブと連携した進学指導	(1) 生徒の進学先、就職先の決定状況や、生徒、保護者からの評価 (2) 学年進行による進路意識の醸成度 (3) 総合型選抜、学校推薦型選抜の結果														
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価													
	(1) 3年学年会と進路指導部、学科が連携し、担任が中心となり一人一人の生徒と向き合い、進路実現を目指した。 (2) 1・2年学年会に対し進路情報を提供し、キャリア形成に役立つ集会等を実施した。 (3) 学科の学習内容を踏まえた受験校決定や、補習授業、小論文・面接指導を実施した。	①一人一人と向き合い、多様な進路希望に対応する指導により、成果を収めたか。 ②生徒の段階に応じた情報提供を生徒自身は生かされたか。 ③各学科が強みを生かし、主体的に進路指導を行ったか。	<table border="1"> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		(A)	B	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D
(A)	B	C	D													
A	(B)	C	D													
A	(B)	C	D													
12	成果・課題	<p>○3年生は、自身の能力や将来の希望を踏まえ、より高い目標を掲げて進路実現を目指し成果を収めた。担任をはじめ、多くの教員が生徒に関わってきた。</p> <p>○図書館の工事期間中も工夫して本の貸し出しを行い、生徒のニーズに応えた。</p> <p>●一部の教員が過重負担となる時期がある（特に7月～11月）。書類作成や小論文、面接指導は分担するなどの改善が必要である。</p> <p>●国立大学農学部への進学者を増やすことは、単に進学だけが目的ではなく将来の岐阜県の農業を支える人材を育成する方策の一つであると捉え直す。各学科が横並びで進路指導を行うためには、科長会との連携が必要である。</p>														
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の結果が生徒からの評価だけでなく、保護者からも高い評価（信頼）を得られるよう、学校の進路目標とその過程を低学年から保護者に示し、理解と協力が得られるように努める。</li> <li>多忙な時期に、間違いなく書類決裁が進むシステムへと改善し、3年生担任が生徒の指導と授業に集中できる環境を整える。また、全職員で生徒の進路について情報の交流・発信を行う。</li> <li>将来、農業に携わり、リーダーとなって岐阜県農業を推進する人材を発掘し、関係機関との連携を図って養成するシステムを構築していく。（国立大学農学部進学もその一つの方策である）</li> </ul>														

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇生徒指導部・教育相談
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・いじめや差別に対する対応について前向きな評価が増加している。昨年度以上にいじめ対策組織を有効に活用し、生徒の心情に寄り添い、きめ細かで適切な対応を行ったことが要因と考えられる。
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・基本的生活習慣（岐農三訓）の指導徹底 ・生徒の安全と命を守る教育の推進 ・教育相談の充実 ・人格形成の促進
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会、生徒指導部会、いじめ対策組織、いじめ防止等対策検討会議、特別支援委員会、人権同和委員会を通して、教員間の共通理解を図る。

7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 遅刻指導、身だしなみ指導、啓発活動	(2) 登校時等の交通安全指導、人権教育指導	(3) 心のアンケート、迷惑調査等結果の活用	(4) 教員の資質向上、情報ネットワーク構築
(1) 過去のデータとの比較、外部からの評価	(2) 教員の客観的な判断	(3) 全ての訴えに対する迅速な対応	(4) 情報・意見交換の場の拡大

9	取組状況・実践内容等	10	評価視点	11	評価
(1) 遅刻指導、身だしなみ指導、交通啓発安全指導は、教員、生徒が協働して効率よく行えた。	(2) 心のアンケート、迷惑調査は、生徒の実情を的確に把握でき、有益に活用できた。	(3) 教員間の意思疎通が改善された。	①マナー違反、遅刻者数が減っているか。	②生徒の安全は確保されているか。	③対象生徒への対応は適切か。
					A (B) C D A (B) C D (A) B C D

12	成果・課題	総合評価
○昨年度と比較し、いじめ事案への対応が迅速で的確になった。各教員の意識向上などから、いじめ対策組織がしっかり機能していた。 ○ウィズコロナの生活にも慣れ、学校生活全般にわたり制約がある中でも生徒が生き生きと活動している光景が見られた。 ○校則については、生徒の意見に基づいて見直しを行った。また、一部の校則については、今後も継続して生徒たちに考えさせることとした。 ●全体的に概ね大きな生活の乱れはないが、規範意識が低く社会性がやや育っていない印象は拭えない。 ●他人の気持ちを的確に斟酌せず、対人関係を大きく損なって窮地に陥る生徒が散見された。	A (B) C D	

13	来年度に向けて
・より良い学校生活となるよう生徒が校則の見直しに積極的に関わることを通して、生徒自らが主体的に考え、切り開いていく力を育成する。 ・社会や他人に対する関心や感謝の心をもたせるような取組を考えたい。規範意識や社会性の向上は、人とのつながりについて深く考えさせるところから始めたい。	

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3 評価する領域・分野	◇特別活動	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒アンケート「本校では生徒会活動が活発である」「本校では部活動は適切に行われている」「本校のホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている」と捉えている生徒が昨年度の7割から9割以上へと向上している。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・豊かな心をもつ自立した人間を育てるため、生徒会活動などの特別活動の活性化と充実を図り、感動と達成感のある教育を推進する。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒会行事の在り方を検討し、生徒の手による充実した行事や活動になるよう生徒会役員のリーダーシップを育て、円滑な運営と全生徒の積極的参加を促す。 ・部活動に積極的に取り組ませるための時間や場所を保障し、効率よく活動できるように支援する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒会行事の精選と生徒会活動の充実 (球技大会の学年別実施、体育的行事・岐農祭(校内)の実施)	(1) 生徒会執行部会での綿密な話し合いと各HRとの連携及び行事実施後の点検、反省	
(2) 部活動の活性化と充実	(2) 県大会以上の入賞数や全国大会出場などの大会結果と日常の活動状況の把握	
(3) 望ましい人間関係形成のホームルーム活動	(3) 委員会活動やホームルーム活動の把握	
(4) 地域と連携したボランティア活動	(4) 学校評価アンケートの結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
(1) 執行委員による定例会の開催、生徒会行事の早期計画と綿密な準備、円滑な運営	①定例会議を開き、早期に企画ができたか。	A (B) C D
(2) 部顧問とHR担任及び部活動係との相互連絡、必要備品の整備	②生徒の活動状況が把握できたか。備品の整備ができたか。	A (B) C D
(3) 各HR委員の自主的なホームルーム活動の実施、各分掌との連携	③LHRの充実が図れたか。	A (B) C D
(4) 北方町など、地域との連携	④地域の行事参加、運動体験会の実施	(A) B C D
12 成果 課題	○生徒会が中心となってクラスTシャツを作り、それを着用して生徒会行事を行った。岐阜メモリアルセンターにおいて、全校生徒が一堂に会して室内で行う体育的行事を新たに企画した。 ・○全国大会や東海大会に出場し活躍する部、自己研磨に取り組み豊かな人間性を育む部など、それぞれの目的に応じた主体的な部活動の運営ができた。 ●行事が多く、実施時期の調整や規模縮小などの検討が必要である。 ●生徒総会を開催するなどにより、主体的な生徒会活動を行う必要がある。	
13 来年度に向けての改善方策案	・芸術鑑賞会の開催時期を10月末から12月下旬に変更し、体育的行事から岐農祭までの準備期間を確保することにより、生徒会活動の活性化を図る。 ・生徒総会にて活動の方向性を示し、生徒の主体性を育む。	

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号	15
------	----

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐農生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐農生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐農生	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3 評価する領域・分野	◇厚生部
-------------	------

4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の予防に関しては、全校体制で「健康チェック」「手洗い・消毒」「黙食・換気」に取り組み、一定の成果を上げることができた。</li> <li>・防災に関しては、新型コロナウイルス感染症に留意した訓練や呼びかけを行ったが、全校一斉に避難を行う訓練などを行う必要性を感じた。</li> </ul>
--------------------------------	--

5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>【保健衛生】新型コロナウイルス感染症への対策と取組の徹底</p> <p>【防 災】命を守る訓練を通じた防災意識の向上</p> <p>【環境美化】掃除用具・洗剤などの計画的な整備・ワックスがけやカーテン洗濯などの校内環境、校内美化</p>
--------------------	---

6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健衛生に関しては、保健主事、養護教諭を主として、対策や施策を講じ、校内に呼びかけを行う。</li> <li>・防災は、厚生部防災担当を中心に「命を守る訓練」の計画・実施をし、防災委員会を通じて、各クラスへの啓蒙活動を行う。</li> <li>・環境美化は、担当者を中心に美化委員会による、計画的な清掃環境の整備やワックスがけ、カーテン整備等を行う。</li> </ul>
--------------------------	--

7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
-------------------	---------------------

<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 登校時の健康チェック、校内消毒作業</li> <li>(2) 黙食、手指消毒、教室換気の実施</li> <li>(3) 命を守る訓練の実施</li> <li>(4) 清掃用具、カーテンなどの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 健康チェックカード（生徒記入）、消毒当番カード（職員）の確認（7月末まで実施）</li> <li>(2) 全校放送、クラス担任による指導</li> <li>(3) 訓練時の生徒の動向を確認</li> <li>(4) 清掃用具、カーテンの点検</li> </ul>
---	--

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保健衛生：新型コロナウイルス感染症対策の実施</li> <li>(2) 命を守る訓練の実施と防災意識の向上</li> <li>(3) 掃除用具などの適切な配置及びワックスがけやカーテンの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全校一丸となって取り組むことができたか。</li> <li>② 訓練は適切に実施できたか。防災意識は向上したか。</li> <li>③ 清掃用具の設置状況・ワックスがけ・カーテン整備の状況</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>

12 成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健：全職員で新型コロナ対応ができた。</li> <li>●保健：長期に渡る対応で、職員の精神的負担が大きく、疲弊している。健康チェックを始め、取り組み全般が形骸化し始めている。</li> <li>○防災：感染対策を考慮した上で、命を守る訓練は実施できた。</li> <li>●防災：全校一斉避難形式での避難訓練が実施できていないため、全校の防災意識がやや薄れている。</li> <li>○環境美化：掃除用具の計画配置・ワックスがけ・カーテンの整備等を精力的に実施できた。</li> <li>●環境美化：掃除分担区域・範囲に対し、教職員の人数が少ない。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p>

13	来年度に向けての改善方策案
<p>保健：コロナ禍による新しい生活様式の定着を目指しつつ、感染防止対策を確実に実施する。</p> <p>防災：感染防止対策を講じながら、防災意識を高める訓練の方法を検討する。</p> <p>環境整備：掃除用具・カーテンの整備を引き続き実施する。全校の美化意識の向上に努める。</p>	

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1	学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
		・生命を慈しみ、他を思いやり、社会に貢献する岐阜生 ・社会人として必要な基礎・基本を身に付けた岐阜生 ・志を高くもち、目標に向かって挑戦し続ける岐阜生	・産業界や大学等研究機関と連携した探究活動の推進と、その成果を広く地域に発表する機会の充実 ・海外の学術連携校との交流や世界各地の農業を体験的に学ぶ海外研修の推進 ・望ましい人間関係の形成や責任感・連帯感を涵養する特別活動、部活動の充実	・他者と協働しながら主体的に学び、地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する意欲のある生徒 ・高等学校での課題研究を大学でさらに深めようと、自らの可能性に挑戦する向学心・探究心のある生徒 ・学校生活の充実や競技力及び技術の向上、人間形成を目指し、意欲的に部活動に取り組む生徒

3	評価する領域・分野	◇農業全般		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の専門教育に対する期待度は大きい。</li> <li>・地域人材を育成するふるさと教育や課題解決学習への注目が高い。</li> <li>・7学科がそれぞれの専門性を生かした教育を実施している。</li> </ul>		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動・教育環境の充実</li> <li>・備品管理と安全教育の徹底</li> </ul>		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議、農場会議、科長会、各学科会議、部門長会議</li> <li>・地域連携や地域社会との協働</li> </ul>		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 課題発見・解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成</li> <li>(2) 大学や研究機関等との連携及びプロジェクト活動の質的向上</li> <li>(3) 備品管理と安全指導の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事後アンケート</li> <li>(2) 地域の声や生徒・保護者・職員の意見</li> <li>(3) 各種メディアへの報道状況</li> </ul>		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「課題研究」を通じた課題発見・課題解決学習</li> <li>(2) 職員一人一人の研究とプロジェクト学習のレベルアップ</li> <li>(3) 安全運転や作業点検カード・運転台帳への記録の着実な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題研究の活動状況及び成果発表</li> <li>②研究の実施状況</li> <li>③事故や怪我等の発生件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> </ul>	
12	成果・課題	総合評価		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標達成に向けて、特色と活力ある学科作り及びキャリア教育が実践できたため、プロジェクトの研究成果を具現化することにつながった。</li> <li>○「課題研究」を通して課題発見・課題解決学習の充実を図り、自発的・創造的な学習態度を身に付けさせることができた。</li> <li>○新しい学力観による観点別評価を行い、学習評価を充実させることができたことに加え、ICTを活用した学びを充実させ、生徒の思考力、判断力、表現力を高めることができた。</li> <li>○実習前・中・後の安全指導の周知徹底により、職員、生徒とも大きな怪我等がなく取り組むことができた。</li> <li>●新型コロナウイルス感染防止対策の中で、連携事業等を通して科学性の高い研究や課題解決にいかにつなげていくかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> </ul>		
13	来年度に向けての改善方策案			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に応じた作目・畜目の検討と改善、学習内容の精選、DXの効果的な活用方法についての取組を進めるとともに、GAP、HACCPへの取組をより推進する。</li> <li>・科学性の高い「課題研究」に取り組めるよう職員が自己研鑽に努める。</li> <li>・働き方改革に対応できるよう、適正な圃場（飼養）規模と管理の在り方について改善を進める。</li> <li>・職員間の情報共有と協力体制を整える。</li> <li>・実験・実習の見直しによる施設・設備の整備を計画的に進めるとともに、管理と安全指導を常に意識しながら取り組む。</li> </ul>			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月20日

### 【意見・要望・評価等】

- ・落ち着いた態度で黙々と学習に臨む姿に感心した。生徒の学習に取り組む姿に、将来を見据えて学ぶ姿勢を感じた。今後も地域のリーダーを育てる取組を推進してほしい。
- ・学校評価を見ると、生徒や保護者からは十分満足を得られていると推察する。この中でより良い評価を目指すのはハードルが高いが、まずは組織としての引継ぎを確実にいき、的を絞って取り組んでほしい。
- ・ICT機器の活用は、中学校でも進んでいる。道具の使い方ですら終わらせることなく、道具を活用し何を身に付けさせるかを大切にしてほしい。
- ・いじめに関する取組は、起こった事案への対応も大切だが、未然防止を前面に出して取り組むと効果がより高くなると考える。